

四国のジオパーク・ジオパーク関係地域から見る、付加体の上での生き方 A way of life on the accretionary prism at Geoparks and Geoparks project areas in Shikoku island.

*殿谷 梓¹、今井 悟²、榊山 匠³、小笠原 翼⁴

*Azusa Tonotani¹, Satoru Imai², Takumi Sakakiyama³, Tsubasa Ogasawara⁴

1. 三好市役所 まるごと三好観光戦略課、2. 土佐清水ジオパーク推進協議会、3. 西予市役所 総務企画部 まちづくり推進課 ジオパーク推進室、4. 室戸ジオパーク推進協議会

1. Tourism strategy division in Miyoshi city office, 2. Tosashimizu Geopark Plan Promotion Committee, 3. Seiyō city Geopark Promotion Office, 4. Muroto Geopark Promotion Committee

付加体とは、海洋プレートが大陸プレートの下に沈み込む時に、海洋プレート上の堆積物や火山噴出物などが剥ぎ取られ、陸側に付加されたものである。四国の6割以上は、過去の海洋プレートの沈み込みによってできた付加体から成る。

四国の付加体の北境は、四国をほぼ東西に貫く中央構造線であり、その南側に位置する大地の大部分は、様々な時代に形成された付加体から成る。中央構造線から南側に向かって、三波川帯、御荷鉾帯、秩父帯、黒瀬川帯、四万十帯が分布し、それらの地質帯はどれもほぼ東西方向に広がっている。また各地質帯の形成年代については、一部例外を除き、南へ向かうにつれて新しくなる傾向を示す。

四国に点在しているジオパークおよびジオパーク関係地域は、そのほとんどが付加体からなる大地の上にある。これらの地域では、特徴的な地質・地形と共存した生態系や歴史文化が育まれている。

本発表では、付加体の上で育まれた特徴的な生態系や歴史文化について、四国内のジオパークおよびジオパーク関係地域を通して紹介する。

キーワード：ジオパーク、四国の付加体

Keywords: Geopark, Accretionary prism in Shikoku